

# 地域特産種量産放流技術開発事業(抄録) (オニオコゼ)

曾田一志・後藤悦郎

## 要 約

### 1. 種苗生産技術開発

- ・ 7年度から9年度にかけて購入した天然親魚120尾を採卵用親魚として用いた。
- ・ 総浮上卵数は90万粒、平均浮上卵率は37.7%であった。
- ・ 11回の飼育で15,115尾の着底魚を生産した。平均生残率は2.3%であった。
- ・ 飼育15日目から20日目にかけて原因不明の斃死が発生し、生残率を低下させた。

### 2. 中間育成技術開発

- ・ 取り上げ時にエルバージュによる薬浴を行い、中間育成時の滑走細菌症の発生を抑制した。
- ・ アクリルパイプ製の選別機を使用することによって擦れによる斃死を抑制した。
- ・ 飼育60日目に飼育水の逆流によって9年度生産魚はすべて死亡した。

### 3. 資源添加技術開発

- ・ 多伎漁業協同組合、大社漁業協同組合、浦郷漁業協同組合において買い取り調査を行い、混獲率はそれぞれ28.1% (調査尾数171尾)、1.2% (82尾)、14.8% (61尾)であった。

### 4. 資源生態調査

- ・ 稚魚用桁曳き網を用いた採集調査により、沿岸の水深25mから40mにかけての地点から、浮遊仔魚と幼魚をそれぞれ1尾ずつ採集した。

\* 詳細は、平成9年度地域特産種量産放流技術開発事業報告書(魚類グループ)を参照のこと。